

## 1 2017 年度事業報告

### I 山岳および登山に関する学術調査および研究について（定款第2章第4条第1項）

1. 1979年に設立されたヒマラヤ委員会を適宜開催し、崑崙山脈、雲南省、チベット自治区などの中国ならびにブータンにある高峰への学術登山隊派遣について検討を重ねた。
2. カラコラム、ネパール、中国、ブータン、ヒンズークシおよび南極地域における登山ならびに学術探検に関する研究を継続した。1973年春のネパール・ヤルンカン峰遠征隊、1974年カラコラムK12峰遠征隊、1977年ネパール・ランタン谷予備踏査隊、1981年チベット高原予備踏査隊、1982年チベット高原学術登山隊（カンペンチン峰）、1983、1984年ブータン・ヒマラヤ予備調査隊、1985年ブータン・ヒマラヤ学術登山隊（マサコン峰）および日中友好ナムナニ峰合同登山隊、1988年崑崙学術登山隊、1989年雲南省科学調査隊、ムスターグアタ峰医学学術登山隊および第1次梅里雪山峰学術登山隊、1990年シシャパンマ峰医学学術登山隊、第2次梅里雪山峰学術登山隊および1996年第3次梅里雪山峰学術登山隊によってもたらされた各種資料・文献を引き続き調査した。
3. 1973年4月に本会内に設立された旧国際登山探検文献センターで収集された登山探検資料を京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に寄贈し、文献資料目録を編纂するとともに引き続き資料の充実と収集資料の整理を行った。
4. 本会設立から現在まで本会会員が主催または参加した海外遠征の写真、映像資料を集めるAACKアーカイブス事業委員会（委員長：会員松林公蔵）を設けて、資料の整理にあたった。
5. 雲南・チベット地域の総合的研究を目的に2004年に設立された雲南懇話会（代表：会員安仁屋政武）の運営に協力した。
6. 第37回日本登山医学会学術集会の運営に本会会員が協力した。

### II 一般社会に対する健全な登山の指導奨励ならびにこれに必要な研究会、講習会および展覧会等の開催について（同第2項）

1. 2017年8月、京都大学山岳部との共催で夏季登山講習会を新潟県妙高市京都大学笹ヶ峰ヒュッテで開催した。
2. 2017年12月から2018年1月まで、京都大学山岳部との共催で冬季スキー登山講習会を新潟県妙高市京都大学笹ヶ峰ヒュッテで開催した。
3. 公益社団法人日本山岳会の副会長として会員中山茂樹、関西支部評議員として平井一正、京都滋賀支部長として田中昌二郎が同会の運営に協力し、国内外の登山探検の振興に努めた。
4. UIAA（国際山岳連合）の医学委員として会員中島道郎、松林公蔵らが同会の運営にあたった。
5. 2017年8月11日に栃木県那須町の「那須町文化センター」で開催された第2回山の日記念全国大会の実行委員会副会長として会員松沢哲郎がその運営に協力した。
6. 2017年10月21日～10月27日に開催された「京都大学ブータン王国友好60周年記念事業」（平成29年度京都大学総長裁量経費「京大・ブータン連携60周年記念事業：ブータン王女によるGNHシンポジウムの開催」）で、会員松沢哲郎、松林公蔵、幸島司郎、坂本龍太らがその運営に協力した。

7. 2017年10月30日から2018年1月15日に京都大学百周年時計台記念館で開催された「田中二郎氏写真展 -1970年代以前の伝統的狩猟採集生活をおくるブッシュマン-」（主催：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院（PWS）、京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）、京都大学アフリカ地域研究資料センター（CAAS）、京都大学アフリカ学際研究拠点推進ユニット）を共催し、会員市川光雄、幸島司郎、松沢哲郎らが運営に協力した。

### Ⅲ 国内、国外における登山および探検に対する企画および協力について（同第3項）

1. 2017年5月から11月まで、新潟県妙高市笹ヶ峰において、会員幸島司郎、田中二郎、上尾庄一郎、原田道雄、横山宏太郎、原剛、高尾文雄、山田和人、中山茂樹らが京都大学山岳部との共同で同山岳部の管理する京都大学笹ヶ峰ヒュッテの維持管理ならびに同地域の環境保全に協力した。

### Ⅳ 山岳登山に関する図書、機関誌などの発行について（同第4項）

1. 『2016年度事業報告および収支決算書・2017年度事業計画および収支予算書』を作成し、会員に配布した。
2. 『AACK Newsletter No.81～No.84』の編集・発行を行い、会員相互の情報交換を図った。
3. 京都大学ヒマラヤ研究会、京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院ならびに京都大学ヒマラヤ研究ユニットが発行する『ヒマラヤ学誌 第19号』の編集・発行に協力し、同誌を本会会員に配布した。
4. 『AACK時報 第15号』の編集作業をすすめた。
5. 本会の公式ウェブサイト（[www.aack.info](http://www.aack.info)）を運営し、本会の歴史や事業活動および社会的貢献について広く情報公開するとともに、会員および会員外の情報交換の場を提供した。

### Ⅴ 目的を同じくする国内および国外の団体との連絡ならびに情報の交換について（同第5項）

1. 日本・パキスタン合同のサルトロカンリ峰遠征隊の成功を契機として続けられているパキスタンの山岳会とくにカラコラムクラブとの交流をさらに深め、もって友好関係にある両国登山界の発展に寄与し、ひいては日本・パキスタン両国の親善に貢献した。
2. 1980年、中国登山協会代表の本会訪問を契機として始まり、カンペンチン峰登山隊、ナムナニ峰合同登山隊以降続けられてきた中国登山協会との協力をさらに深め、もって友好関係にある両国登山界の発展に寄与し、ひいては日本・中国両国の親善に貢献した。
3. 1981年に設立された日本ブータン友好協会ならびに2010年に設立された京都大学ブータン友好プログラムとの交流を通じ、両国の友好を深め、両国登山界の発展に寄与し、ひいては日本・ブータン両国の親善に貢献した。
4. 本会設立当時から続けられているネパール山岳関係者との交流を深め、もって友好関係にある両国山岳界の発展に寄与し、ひいては日本・ネパール両国の親善に貢献した。
5. ヒマラヤンクラブ、ポーランド山岳会、ドイツ山岳会、オーストリア山岳会、英国山岳会、アメリカ山岳会等との交流を深め、これら各国登山関係者との親善に貢献した。
6. 公益社団法人日本山岳会、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会、京都府山岳連盟、日本ヒマラヤ協会等の国内の山岳会、山岳関係者との交流を深めた。

I 2017年度収支決算書

(2017年4月1日～2018年3月31日)

1. 一般会計

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	備 考
大科目	小科目			
I	事業活動収支の部			
I	事業活動収入			
(1)	基本財産運用収入	100	30	70
	基本財産受取利息	100	30	70 預金利息
(2)	入会金収入	4,500	5,000	△ 500
	受取入会金	4,500	5,000	△ 500 4名分(うち学生会員2名)
(3)	会費収入	1,010,000	941,474	68,526
	受取会費	1,010,000	941,474	68,526 181名分(うち学生会員5名)
(4)	事業収入	100	152	△ 52
	受取寄付金	0	0	0
	雑収益	100	152	△ 52 預金利息
(5)	著作権収入	570,000	381,335	188,665
	受取著作権	570,000	381,335	188,665 雪山讃歌
(6)	特別会計からの繰入金収入	0	0	0
	特別会計から	0	0	0
	事業活動収入計	1,584,700	1,327,991	256,709
2.	事業活動支出			
(1)	事業費支出	1,191,000	1,031,623	159,377
I	旅費交通費	5,000	5,000	0 講演者旅費
I	資料費	6,000	21,600	△ 15,600 書籍, Newsletter製本
II	装備費	0	0	0
III	支払調査助成金	100,000	0	100,000
IV	通信費	130,000	141,093	△ 11,093 Newsletter, ヒマラヤ学誌発送
IV	情報通信費	0	0	0
IV	印刷製本費	880,000	793,640	86,360 Newsletter 81-84, ヒマラヤ学誌19
IV	編集費	20,000	20,000	0 Newsletter編集
V	集会・渉外費	50,000	50,290	△ 290 京都府岳連会費
(2)	管理費支出	500,000	455,396	44,604
	旅費交通費	80,000	47,940	32,060 3月理事会交通宿泊費
	通信費	70,000	75,798	△ 5,798 事業報告計画書・名簿等発送
	備品費	0	0	0
	消耗品費	0	0	0
	修繕費	0	0	0
	印刷製本費	120,000	117,720	2,280 事業報告計画書・名簿
	賃借料	0	0	0
	会議費	120,000	121,658	△ 1,658 5月総会理事会, 3月理事会
	委託費	100,000	92,280	7,720 名簿管理, 役員登記
	雑費	10,000	0	10,000
(3)	特別会計への繰入金支出	0	0	0
	特別会計へ	0	0	0
	事業活動支出計	1,691,000	1,487,019	203,981
	事業活動収支差額	△ 106,300	△ 159,028	52,728
II	予備費支出	0	0	0
	当期収支差額	△ 106,300	△ 159,028	52,728 当期赤字額
	前期繰越収支差額	170,000	174,271	△ 4,271
	次期繰越収支差額	63,700	15,243	48,457

## 2. 特別会計(遠征基金)

(単位:円)

科 目		予算額	決算額	差異	備 考
大科目	小科目				
I	事業活動収支の部				
1.	事業活動収入				
(1)	事業収入	10,000	8	9,992	
	受取寄付金	0	0	0	
	雑収益	10,000	8	9,992	預金利息
(2)	一般会計からの繰入金収入	0	0	0	
	一般会計から	0	0	0	
	事業活動収入計	10,000	8	9,992	
2.	事業活動支出				
(1)	事業費支出	200,000	100,540	99,460	
III	旅費交通費	0	0	0	
III	通信費	0	0	0	
III	消耗品費	0	0	0	
III	支払調査助成金	100,000	100,540	△ 540	梅里雪山遺品搜索収容
III	委託費	0	0	0	
III	雑費	0	0	0	
V	集会・渉外費	100,000	0	100,000	
(2)	一般会計への繰入金支出	0	0	0	
	一般会計へ	0	0	0	
	事業活動支出計	200,000	100,540	99,460	
	事業活動収支差額	△ 190,000	△ 100,532	△ 89,468	
	当期収支差額	△ 190,000	△ 100,532	△ 89,468	当期赤字額
	前期繰越収支差額	2,800,000	2,805,279	△ 5,279	
	次期繰越収支差額	2,610,000	2,704,747	△ 94,747	

## 2 2018 年度事業計画

### I 山岳および登山に関する学術調査および研究（定款第2章第4条第1項）

#### 1. ヒマラヤ、カラコラム、チベット、崑崙山地域等における登山ならびに学術探検の文献の収集ならびに研究

- (1) ヒマラヤ等上記の地域の登山ならびに地質学、気象学、氷河学、動物学、植物学、人類学、医学などの学術探検に関する文献資料を収集し、それぞれの分野に関して研究を行う。
- (2) 過去数十年にわたる本会の海外遠征および学術調査によって蓄積された学術資料ならびに国内外から収集した学術資料を京都大学総合博物館ならびに京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に2000年に寄贈し、引き続きその資料充実と収集資料の整理に協力する。
- (3) 本会会員が主催または参加した海外遠征の写真、映像資料等を集めるAACKアーカイブス事業を担う委員会を設けて、資料の整理を進める。
- (4) 雲南・チベット地域の総合的研究を目的に2004年に設立された雲南懇話会の運営に協力する。
- (5) 第38回日本登山医学会学術集会の運営に本会会員が協力する。

#### 2. 高所登山に関する調査研究

本会が主催したチベット高原学術登山隊ならびに過去数回にわたる海外遠征によって得た資料を基に、引き続き、(1) 高所医学、(2) 高所気象学、氷河学、(3) 高所用装備、(4) 高所用食糧、(5) 高所山岳遭難の防止など、高所登山に関する調査研究を行う。

### II 一般社会に対する健全な登山の指導奨励ならびにこれに必要な研究会、講習会および展覧会等の開催（同第2項）

#### 1. 登山講習会の開催と講師の派遣

健全な登山を奨励するため下記により登山講習会を行う。

##### (1) 登山講習会（京都大学山岳部と共催）

2018年度に、新潟県妙高市京都大学笹ヶ峰ヒュッテにて、一般登山者に対して、本会会員を指導者として登山技術、遭難防止、自然愛護を目的とした講習会を開催する。

##### (2) 他団体主催講習会への講師の派遣

独立行政法人日本スポーツ振興センターが主催する登山技術講習会、公益社団法人日本山岳会が主催する海外登山研究会ならびにUIAA（国際山岳連合）の高所医学研究会に会員を講師として派遣する。

#### 2. 研究会および展覧会等の開催

チョゴリザ登頂60周年を記念して京大の登山や探検やフィールドワークの歴史を振り返り、未来を考える三つの催しを企画開催する。

##### (1) シンポジウム「探検大学の誕生」

2018年6月17日に京都大学吉田キャンパスで開催する。

##### (2) 写真展「探検大学 早わかり」

2018年6月1日～7月16日に京都大学百周年時計台記念館で開催する。

##### (3) 特別展示「花嫁の峰チョゴリザ、そして南極……」

2018年6月5日～7月1日に京都大学百周年時計台記念館で開催する。

### Ⅲ 国内・国外における登山および探検に対する企画および協力（同第3項）

#### 1. 国内山岳会の海外登山隊への資料提供と協力

国内の山岳会が主催するカラコラム，ネパール・ヒマラヤ，ブータン・ヒマラヤおよびチベット高原地域などへの登山隊および学術調査隊に資料を提供し，十分な協力をを行う。

#### 2. 中国，インド，ネパール，パキスタン，ブータン国内の登山および学術調査

各国の登山協会，山岳会，関係諸団体と連絡をとり，調査を行う。

#### 3. 遠征基金の運用および管理

1975年度に本会に設立された京都大学学士山岳会遠征基金を遠征基金運用規程に基づき運用・管理する。

#### 4. 海外登山・探検助成制度の運用

2005年度に設立した海外登山・探検助成制度を運用し，本会会員が主催する海外登山・探検に対して助成金を交付する。

### Ⅳ 山岳登山に関する図書・機関誌などの発行（同第4項）

#### 1. 事業報告ならびに事業計画

A4判の冊子を作成し，本会の事業報告ならびに事業計画，新入会員などの紹介を掲載する。毎年1回発行し，配布先は本会会員である。

#### 2. AACK時報

『AACK時報』の編集を行う。

#### 3. ヒマラヤ学誌

京都大学ヒマラヤ研究会，京都大学ブータン友好プログラム，京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院ならびに京都大学ヒマラヤ研究ユニットが発行する『ヒマラヤ学誌 第20号』の編集・発行に協力し，同誌を本会会員に配布する。

#### 4. AACK Newsletter

『AACK Newsletter』を年4回編集・発行し，全会員に配布して会員相互の情報交換を図る。

#### 5. ウェブサイトの運営

本会の公式ウェブサイト（[www.aack.info](http://www.aack.info)）を運営し，本会の歴史と活動，会員の動向や山行計画と報告などについて広く社会に情報公開し，会員および会員外の情報交換の場とする。

### Ⅴ 目的を同じくする国内および国外の団体との連絡ならびに情報の交換（同第5項）

パキスタンの山岳会，中国の登山協会，日本ブータン友好協会，ネパール山岳関係者，ポーランド山岳会，ヒマラヤンクラブ，ドイツ山岳会，オーストリア山岳会，英国山岳会，アメリカ山岳会等との交流を深め，これら各国登山関係者との親善に貢献する。

### Ⅲ 2018年度収支予算書

(2018年4月1日～2019年3月31日)

#### 1. 一般会計

(単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
大科目	小科目			
I	事業活動収支の部			
1.	事業活動収入			
(1)	基本財産運用収入	100	100	0
	基本財産受取利息	100	100	0 定期預金利息
(2)	入会金収入	3,000	4,500	△ 1,500
	受取入会金	3,000	4,500	△ 1,500 3名分(うち学生2名)
(3)	会費収入	1,010,000	1,010,000	0
	受取会費	1,010,000	1,010,000	0 会員220名分(うち学生20名)
(4)	事業収入	100	100	0
	受取寄付金	0	0	0
	雑収益	100	100	0 預金利息
(5)	著作権収入	360,000	570,000	△ 210,000
	受取著作権	360,000	570,000	△ 210,000 雪山讃歌
(6)	特別会計からの繰入金収入	160,000	0	160,000
	特別会計から	160,000	0	160,000 特別会計から一般会計へ
	事業活動収入計	1,533,200	1,584,700	△ 51,500
2.	事業活動支出			
(1)	事業費支出	1,160,000	1,191,000	△ 31,000
I	旅費交通費	0	5,000	△ 5,000 講演者旅費
I	資料費	0	6,000	△ 6,000 書籍
II	装備費	0	0	0 登山装備
III	支払調査助成金	100,000	100,000	0 海外登山探検
IV	通信費	120,000	130,000	△ 10,000 Newsletter, ヒマラヤ学誌発送
IV	情報通信費	0	0	0 ホームページ
IV	印刷製本費	870,000	880,000	△ 10,000 Newsletter印刷85-88, ヒマラヤ学誌20
IV	編集費	20,000	20,000	0 Newsletter編集
V	集会・渉外費	50,000	50,000	0 京都府岳連会費
(2)	管理費支出	380,000	500,000	△ 120,000
	旅費交通費	80,000	80,000	0 3月理事会交通費
	通信費	80,000	70,000	10,000 事業報告計画書等発送
	備品費	0	0	0
	消耗品費	0	0	0
	修繕費	0	0	0
	印刷製本費	50,000	120,000	△ 70,000 事業報告計画書印刷
	賃借料	0	0	0
	会議費	120,000	120,000	0 5月総会理事会, 3月理事会
	委託費	40,000	100,000	△ 60,000 名簿管理
	雑費	10,000	10,000	0 慶弔費等
(3)	特別会計への繰入金支出	0	0	0
	特別会計へ	0	0	0
	事業活動支出計	1,540,000	1,691,000	△ 151,000
	事業活動収支差額	△ 6,800	△ 106,300	99,500
II	予備費支出	0	0	0
	当期収支差額	△ 6,800	△ 106,300	99,500 黒字予算
	前期繰越収支差額	15,000	170,000	△ 155,000
	次期繰越収支差額	8,200	63,700	△ 55,500

## 2. 特別会計(遠征基金)

(単位:円)

科 目		予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
大科目	小科目				
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
(1)事業収入		10,000	10,000	0	
	受取寄付金	0	0	0	
	雑収益	10,000	10,000	0	書籍売却
(2)一般会計からの繰入金収入		0	0	0	
	一般会計から	0	0	0	
	事業活動収入計	10,000	10,000	0	
2. 事業活動支出					
(1)事業費		700,000	200,000	500,000	
Ⅲ	旅費交通費	0	0	0	
Ⅲ	通信費	0	0	0	
Ⅲ	消耗品費	0	0	0	
Ⅲ	支払調査助成金	600,000	100,000	500,000	海外登山, チョゴリザ60年関係
Ⅲ	委託費	0	0	0	
Ⅲ	雑費	0	0	0	
Ⅴ	集会・渉外費	100,000	100,000	0	海外山岳会関係
(2)一般会計への繰入金支出		160,000	0	160,000	
	一般会計へ	160,000	0	160,000	特別会計から一般会計へ
	事業活動支出計	860,000	200,000	660,000	
	事業活動収支差額	△ 850,000	△ 190,000	△ 660,000	
	当期収支差額	△ 850,000	△ 190,000	△ 660,000	赤字予算
	前期繰越収支差額	2,704,000	2,800,000	△ 96,000	
	次期繰越収支差額	1,854,000	2,610,000	△ 756,000	